

「さんべ夢ステージ」

1 趣旨

- (1) 主体的に社会参画を目指す青年に対し、コミュニケーションをキーワードに、企画・運営の様々な場面で問題解決・合意形成を繰り返し、対人関係能力や傾聴力等の社会人になった時に必要な資質の向上を図る。
- (2) 地域の方との関わりから地域の実態を把握し、自らができることを考えながら地域貢献を目指す。

2 事業の概要

本事業では、ボランティア活動や企画等に興味・関心のある青年（以下ボランティア参加者という。）を参加対象に設定している。ボランティア参加者が交流の家近隣にある福間牧場での牧場見学体験や地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業「さんべでミルクざんまい」の見学を通して、牧場主の福間氏や利用者の方の「オモイ」が「カタチ」になるような製作物を企画考案し、製作する。また、この事業を通して、ボランティア参加者同士が関わり合って、社会人になったときに必要となるお互いのコミュニケーション能力を高める。

(1) 期日

- | | |
|--------|--------------------|
| ①企画編 1 | 令和4年 9月17日（土）【日帰り】 |
| | 令和4年 9月18日（日）【日帰り】 |
| | 令和4年 9月19日（月）【日帰り】 |
| ②企画編 2 | 令和4年10月29日（土）【日帰り】 |
| ③製作編 1 | 令和4年11月19日（土）【日帰り】 |
| ④製作編 2 | 令和4年12月 3日（土）【日帰り】 |
| ⑤完成編 | 令和4年12月10日（土）【日帰り】 |

(2) ボランティア参加者

全ての回を通じて 3人（大学生2人、法人ボランティア高校生1人） ※募集10人

(3) 講師

リードクライム株式会社 代表取締役 西 直人 氏（①企画編1 のみ）

(4) 主な研修内容

【①企画編1】

1日目	○アイスブレイク ○講義・演習 「ヒアリングのポイントについて」
2日目	○福間牧場の実態把握のためのヒアリング
3日目	○講義・演習 「ブレインストーミングによるアイデア出し」

【②企画編2】

○アイスブレイク ○話し合いにおけるグラドルール設定 ○アイデア決定

【③製作編1】

○アイスブレイク ○製作におけるグラドルール設定 ○お手紙ポスト製作

【④製作編2】

○アイスブレイク ○お手紙ポスト製作 ○ブラックボード製作

【⑤完成編】

○アイスブレイク ○講師へのお礼の手紙作成 ○福間氏にお手紙ポストお披露目

3 事業の特色

プログラムデザインと企画のポイント

本事業は全5回の構成である。過去2年間は新型コロナウイルス感染症の影響で、大学生ボランティアが宿泊をしながら進めていく自主企画事業ができず、「さんべ夢ステージ」自体を実施することもできなかつ

た。今年度も、学生は宿泊をすることができない状況が続いている。

そこで、今年度はこれまでのような宿泊を伴う事業ではなく、全5回を日帰りで行った。宿泊ができないので、準備時間が限られてしまうことから、参加者が考案した製作物を製作するというゴールを設定した。そこで、当所の近隣にある福間牧場をより魅力的にする製作物を製作することにした。

○ 事業開始時の目標設定及び事業終了後の振り返りの実施

(様式：Google スプレッドシート「成長の軌跡」の記入)

・「Google スプレッドシート」を用いて、学生は各回の目標設定と振り返りを行った。個人の目標設定を行うことで、参加者が「何のために活動しているのか」をより具体的に考えながら活動することができた。また、振り返り際には、具体的に「次からどうしていくのか」ということを考え、文章化することで、各回で得られた学び、気づきの自覚化や次への見通しの明確化が図られるようにした。振り返りの記入後は、職員がコメントを書き込み、学生の考えの深まりや広がりを促し、評価を行うことで活動意欲につなげることができるようにした。

○ 外部講師を招聘し、話し合い活動をよりよくするポイント、企画立案の方法、地域に対してヒアリングする上でのポイント、SDGs について、アイデア出し・アイデア絞りについての講義・演習を通して学ぶ機会の提供

・参加者が福間牧場牧場主の福間氏の「オモイ」を「カタチ」にする製作をしていく上で大事なポイントを整理して活動の見通しをもてるようするために外部講師を招へいし、講義・演習を通して学ぶ機会を設定した。

・実際に福間牧場の見学、牧場体験、福間氏へのヒアリングを行い、アイデア出しをするための現地調査を行った。

・ブレインストーミングに手法によってより多くのアイデアの創出を行った。

○ 話し合いをしていく上でのグラドルールの設定

・チームで大切にしたいコミュニケーション能力の項目を意識しながら活動できるように、チームで話し合いをする際のグラドルールを設定した。

○ ミッションカードへの記入

・参加者同士が、自分では気付いていない自分自身の良さに気づき、自己理解を深め、人のよいところに着目する態度を養うことねらうために、ミッションカードを用いたいい所見付けの活動を設定した。

○ お手紙ポスト「思い出搾りたて 産地直送便」の製作をしていく上でのグラドルール設定

・参加者がコミュニケーション能力向上を意識して製作作業を行えるようにするために、製作活動において、チームで大切にしたいことをグラドルールとして設定した。

○ 振り返りの実施

・「さんべ夢ステージを通じて学んだこと・気づいたこと」、「今回の経験を今後どう生かすか」、「今回見つかった新たな課題を解決していくためにどうしていくか」の3点について、グループで協議し活動を振り返ることで、今までの個々の学びや気づきだけでなく、他のボランティア参加者の学びも共有することができ、更に学びを深めることができた。

○ 運営のポイント

・担当職員は、基本的には「見守る」というスタンスで運営を行った。しかし、安全を確保する場合やボランティア参加者にアドバイス等を求められたとき、その他担当職員が必要だと感じたときには介入するようにした。

4 ボランティア参加者の振り返りアンケートでの記述

① 今回の事業を通して学んだことは何ですか？

- ・協力してひとつのことを成し得る楽しさ。
- ・Yes, and の大切さ…
相手と話す時は否定的に聞くのではなく、相手の話から付け加えたり質問したりするなどして話を膨らませる意識を持つことが大事だと分かった。あいづちも大事。
- ・リーダーシップを発揮することで話し合いを促進することができる。相手に任せるのではなく、自分から積極的に行動したり意見を述べたりすることが大事だと感じた。
- ・話し合いをする時は必ず相手の名前を言いながら話すより良い話し合いができると感じた。「〇〇さんはどう思う？」など名前を呼ぶと相手も話しやすくなる。
- ・3か月間夢ステージに取り組んで自分に自信が持てるようになった。それは最後まで無事やり切れたからでもあるし、仲間に自分の良い所をたくさん言ってもらえたからだ。自己肯定感が高まった。
- ・西先生の講義を聞いて、アイデアを膨らませる方法を学ぶことができた。西先生はアイデアを膨らませることは得意不得意があるわけではなく、どれだけ経験しているかによると言っておられたので、これからもどんどんアイデアを膨らませる経験を積みたい。
- ・アイデア出しやアイデア絞り、ヒアリングなど企画する力を学ぶことができた。
- ・新しい発見をした時の面白さ、嬉しさ
- ・コミュニケーションについて自分の現状からめあてをもって取り組むことができた。
- ・福間さんに出会い、牧場体験をすることで家畜や命について考えるきっかけになった。
- ・自分ができないことがあっても仲間をサポートすることが大事であること。

② 今回の経験を今後どう生かしていきますか？

- ・ファシリテーターとして自分だけでなく、みんなの意見も聞き入れられるようにしていきたい。チームの意見をまとめられるように積極性をもつ。
- ・ふだんの生活の中でも「Yes, and」を意識して話しやすい、話していて楽しいと思ってもらえるようにしたい。
- ・まわりを見ながら今何をしないといけないのか考え、積極的に行動しないといけないと思った。
- ・相手の意見を反対するのではなく、受け止めながら自分の意見を言いたい。

③ 今回の事業を通して見付かった課題及びその課題を解決するためにこれからどうしていきたいですか？

- ・傾聴力を磨きたい。もっと相手に質問できるように聞けるようになりたい。
- ・人の目を見て聞いたり、言われなくても毎回心の中で要約したりできるように人の話を聞きたい。
- ・まだまだどう行動すればよいか迷っている場面もあった。自信をもって積極的に行動していきたい。
- ・仲間に頼ることも時には大切だと感じた。頼りすぎず仲間を信じて一緒に頑張れるようになりたい。
- ・アイデア出しの能力をもっと付けたい。
- ・自分の意見を恥ずかしがらずに相手に伝えていきたい。
- ・考えながら自分の思ったことを伝えるのが苦手なので、ゆっくりでもいいから自分の意見を伝えたい。

④ 自由記述

- ・福間さんからも今回のことで「つながり」ができたと言ってくれた。福間さんとのつながりもうれしいが、仲間とのつながりができたことが本当によかった。

5 成果と課題

《成果》

- 外部講師の講義・演習の学びを実感し、実践しようとする参加者の姿が多く見られたこと。
⇒ 外部講師による講義・演習を通して、今回の事業の趣旨であるコミュニケーションの資質能力向上の基盤となる「コミュニケーションのポイント」を意識した活動を行うことができた。学生たちが作った話し合い活動のグランドルールには、外部講師から教えていただいた「Yes, and」という言葉を取り入れていることから、教わったことを生かそうとしていたことがよく分かる。
- ・相手の考えを真っ向から否定するのではなく、一度受け止めながら話を膨らませる意識を事業最後まで持つことができ、活動が滞ることなく進行することができた。
- ・今回の講義・演習では、ふだんの学生生活の講義などでは聞けない「企画立案の方法」、「ヒアリングのポイント」などを聞くことができた。学生からの振り返りでも、「企画の作り方を学ぶことができた」と

いう発言があった。このことから、学んだ内容は、今回の製作活動を行って地域貢献を目指すという本事業に適した学びであったと言える。

- 地域の方と連携し、「地域の方のために」という目的を設定しながら自主企画事業を実施できたこと。
 - ⇒ ・今までの自主企画事業では、参加学生は宿泊イベントを企画してきたが、今回新たな可能性として地域の実態から地域貢献を考える事業を行った。
 - ・学生にとって、ふだんの生活では出会えないような地域人材との関わりは、「牧場の仕事が分かった」「命の大切さについて考えさせられた」という学生の振り返りから分かるように、新しい価値観に気付くきっかけとなった。福間氏からも「新しいつながりができた」と言ってもらい、今後にも生きていく出会いができた。
- ミッションカードで相手の良いところを見つけることで、参加者の自己肯定感を高めることができたこと。
 - ⇒ ・少しずつ仲間のことを理解してきた製作編1と製作編2では、仲間の良い所を見つけ伝える活動を取り入れた。チームが3人ということで、計2回で仲間全員にミッションカードを書くことができた。学生たちは素直に、相手に良い所を伝えることができていた。伝えてもらうことで、自分自身にとっても新しい気付きがあり、自分の良さを理解でき、「自己肯定感を高めることができた」という学生の振り返りから分かるように、より良好なチームの関係を築くことができた。

《課題》

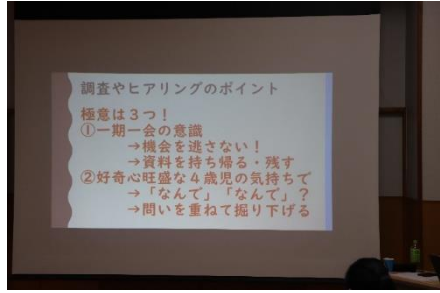
- 新たな地域人材の発掘
 - ⇒ ・来年度以降も、参加学生と地域の方がつながり、学生にとって新たな価値観に気付くことができる事業を行っていきたいと考える。交流の家の周辺地域の方とのつながりを増やし、より多くの地域の方のために、共に活動して下さる地域人材を発掘していく必要があると考える。
- 参加人数が定員10人のところ3人であったこと。
 - ⇒ ・3人の学生が集まったことはよかったが、それでも少ない人数であった。人数が少なくなった理由として考えられることは、「さんべ夢ステージ」を経験した学生が少なくなり、事業のイメージが持てていない学生が多くなったことである。活動の様子が多くの学生に伝わるように、ボランティア活動をまとめた資料などを作成することも大切だと感じた。
 - ・コロナ禍の影響で、宿泊型のボランティアに取り組みたいと思っている学生の参加ができなかった。令和5年度の大学の方針も確認しながら、次年度の自主企画事業の概要を検討していく。

R4さんべ夢ステージ 活動の様子

企画編 1

○企画づくり、アイデア出しについて学ぶ。

ヒアリングポイントを学ぶ。

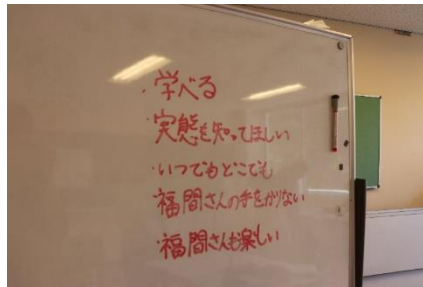


○牧場見学・牧場主の福間氏にヒアリングをし、実態把握を行う。



企画編 2

○たくさんのアイデアからアイデアを決定する。



製作編 1・2

○お手紙ポストを製作する。



完成編

○ポストを完成させ、福間氏にお披露目を行う。



(担当：企画指導専門職付 中谷 康希)